



大倉喜八郎と喜七郎

### ■大倉集古館の沿革

大倉集古館は、明治から大正時代にかけて活躍した実業家・大倉喜八郎（1837～1928）が、明治35年（1902）に自邸内に開館した大倉美術館を前身とし、大正6年（1917）に財団法人化した私立美術館です。現存する日本最古の私立美術館であるとともに、日本で最初の財団法人の私立美術館です。

喜八郎は明治維新以来、産業の振興、貿易の発展に力を尽くし、育英、慈善事業に多く功績を残しました。一方で、美術品の海外流出を嘆き、その保護とわが国の文化の向上に努めた上、50余年にわたって蒐集した多数の文化財と土地・建物及び維持資金を寄付し、大正6年（1917）に財団法人大倉集古館を設立しました。

しかし大正12年（1923）の関東大震災により、当初の建物と陳列中の所蔵品を失いました。昭和2年（1927）、伊東忠太博士の建築設計による耐震耐火の展示館が竣工し、災禍を免れた優品を基にして、更に所蔵品を増加し、翌年10月に再び開館しました。

さらに嫡男喜七郎（1882～1963）がその遺志を継いで、館の維持経営に絶大な援助を行い、自らが多年蒐集した名品、特に近代日本画を多数寄付することで所蔵品の充実を図りました。

第二次世界大戦の戦禍を免れ、昭和35年には財団法人大倉文化財団と改称、同37年にはホテルオークラ開業に合わせて大規模改修を行いました。中国古典様式の名作である展示館は、平成10年に国の登録有形文化財に指定されました。そして、令和元年9月には、5年以上に及んだ増改築工事を経て、The Okura Tokyoと共に再開館しました。

所蔵品は日本・東洋各地域の絵画・彫刻・書跡・工芸など広範にわたり、国宝3件・重要文化財13件及び重要美術品44件をはじめとする美術品約2500件を収蔵しています。展覧会の開催等を通じて、多くの皆様にご来館いただき、日本・東洋美術の粋にふれる好機を提供しています。



### ■ACCESS

- 東京メトロ ●南北線 六本木一丁目駅 中央改札口（泉ガーデン方面）より5分
- 日比谷線 神谷町駅4b出口より7分
- 日比谷線 虎ノ門ヒルズ駅A1またはA2出口より8分
- 銀座線・●南北線 溜池山王駅13番出口より10分
- 銀座線 虎ノ門駅3番出口より10分

※駐車場はございません。公共の交通機関でお越しください。

■開館時間 10:00～17:00（入館は16:30まで）

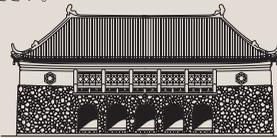
■休館日 月曜日（休日の場合は翌平日）、展示替期間、年末年始 等  
※やむを得ない事情で、会期や展覧会内容などが変更になる場合がございます。ご来館の前に、当館ウェブサイトをご確認ください。

■入館料 一般 1,000円（特別展は1,300円）  
大学生・高校生 800円（特別展は1,000円）  
※学生証をご提示ください。  
※展覧会内容によって、料金が変わる場合がございます。  
中学生以下 無料  
同会期中の有料リピーターは200円引き（前回ご来館のチケットをご持参ください）  
20名様以上の団体は100円引き  
障がい者手帳、被爆者手帳をご提示の方とその同伴者1名は無料

※The Okura Tokyoとのセット鑑賞券  
ランチセット鑑賞券 5,500円／茶菓セット鑑賞券 3,000円

### ■ミュージアムパスポートのご案内

大倉集古館では、ミュージアムパスポートのメンバーを募集しております。詳しくはお問合せください。  
入会金 5,500円



公益財団法人 大倉文化財団  
**大倉集古館**  
OKURA MUSEUM OF ART

〒105-0001 東京都港区虎ノ門2-10-3  
The Okura Tokyo 前  
Tel : 03-5575-5711  
公式WEBサイト : <https://www.shukokan.org/>

# THE OKURA 150th YEAR 2023

## 大倉集古館 展覧会案内

2023年4月～2024年3月

「夜桜」(左隻部分) 横山大観、昭和4年(1929)



2023年4月4日(火)～6月25日(日)

特別展

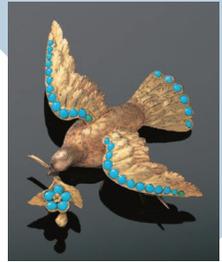
# 愛のヴィクトリアン・ジュエリー

—華麗なる英国のライフスタイル

大英帝国がもっとも繁栄したヴィクトリア女王の治世、王侯貴族だけではなく、当時台頭してきた資本家層など、多くの人々を魅了したヨーロッパのアンティークジュエリーを展示いたします。そのほかに、イギリス上流階級のライフスタイルを彩ったドレスやレース、銀食器など、華やかで優雅な世界をご紹介します。



「ピンクパールズ&カラーゴールドスウィート」イギリス、1830年頃



「ターコイズ&ゴールドブローチ」イギリス、1830年頃



「ヴィクトリア女王のミニチュールペンダント」イギリス、1858年  
※3点とも穂葉アンティークジュウリー美術館所蔵

2023年8月8日(火)～10月22日(日)

特別展 畠中光享コレクション

# 恋し、こがれたインドの染織

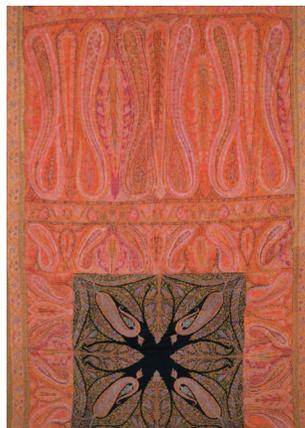
—世界にはばいた布たち

インドは古くより綿の国であり、染織の技法はどの国よりもとび抜けていました。本展では、このインドの染織に焦点をあて、日本画家・畠中光享氏のコレクションの中より、インドから世界を渡り変化を遂げた美しい染織品を取り上げ展覧いたします。インドからヨーロッパ、インドネシアやタイ、イスラム圏や日本など、各地へと展開した染織の伝播を、美しさや技法に着目してその魅力に迫ります。

「ベッドカバー(部分)」コロマンデル・コースト、18世紀後期～19世紀初期



「ショール(部分)」カシミール、1850～70年



2023年11月2日(木)～11月5日(日)

# アートウィーク東京 特別展覧会

「アートウィーク東京 (AWT)」は、日本のコンテンポラリーアートの創造性と多様性、そしてそのコミュニティを、国内外に紹介するアニュアルイベント。AWT公式プログラムとして大倉集古館で開催される本展は、日本の戦後の抽象表現の展開を、絵画や立体はもとより、版画、写真、工芸、書、デザインなど多様なジャンルによって迎えるユニークな場となります。しかも、展覧会を構成する作品はすべて「available (購入可能)」だという、新しい形式の展覧会です。

(主催：アートウィーク東京)



「感涙会の歌」大倉喜八郎、大正・20世紀



「拾級望遥之詩」愛新覚羅溥儀、20世紀

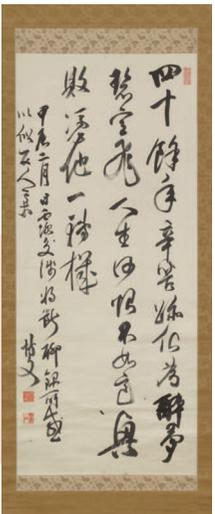
2023年11月15日(水)～2024年1月14日(日)

企画展

# 大倉組商会設立150周年記念 偉人たちの邂逅

—近現代の書と言葉

大倉集古館には、大倉喜八郎と交流をもった中国清時代や、明治大正の偉人たちの書が所蔵されています。彼らは折に触れ歌を詠み、それを贈り合いました。また、喜八郎自身は、光悦流と称する自らの書風によって歌を書きあげ、嫡子の喜七郎は、松本芳翠に書を学び、友とともに漢詩を作り軸に仕立てました。大倉財閥150年をめぐる偉人たちの交流の跡を示す書の数々を展示いたします。



「於日露交渉所感詩」伊藤博文、明治37年(1904)

2024年1月23日(火)～3月24日(日)

企画展

# 大倉集古館の春

—新春を寿ぎ、春を待つ

新年を迎え新春を寿ぎ、来る春を待つ時期にふさわしい当館所蔵品を中心にした展覧会を行います。本年の干支である辰に因んだ龍をモチーフにした絵画や染織品、新春に因んだ雪や梅の絵画作品、名品「夜桜」などの横山大観作品など、令和6年の春を祝し、干支や吉祥、花鳥風月をテーマとした作品を展示いたします。



「蜺子和尚・龍虎図(右幅)」曾我二直菴 江戸時代・17世紀



「夜桜(左隻)」横山大観、昭和4年(1929)



「色絵芙蓉手花鳥図大皿」江戸時代・18世紀